

ジャステイス新潟

不変の正義と民主化された労働運動を求めて！

発行者 船山 勝広

編集者 教 宣 部

令和 2年 1月 1日 第 37号

〒950-0086

新潟市中央区花園1丁目6番30号大幸ビル1-B

Tel. 025-250-6553

FAX. 025-250-6516



イーストイノベーション実践の年に
ジェイアール・イーストユニオン
新潟地方本部 執行委員長 船山 勝広

新年明けましておめでとうございます。昨年5月に元号が平成から令和に代わる時代の移り変わりがありました。昭和生まれとしましては30年あまり続いた平成に、昭和は遙か昔の事のように思われます。また、自然災害では10月の台風19号・21号による被害も記憶に新しいところですが。21号ではJRにおいても長野車両基地で新幹線が水没するなど、多大な被害が発生しました。しかし、一方では国内閉催となったラグビー・ワールドカップで、日本チームが初のベスト8入りを達成し勇気と感動を与えてくれました。流行語大賞にもなった「ONE TEAM(ワンチーム)」は、組織人として肚に据える言葉だと思えます。

さて、JR東日本社内に目を向けますと、『変革2027』に伴う施策が矢継ぎ早に出されています。『ジョブローテーション』も、これからの生産人口減少のなかで、限られた要員で会社を運営していくためには有効な施策のひとつであると考えます。しかし、それら各施策の実施においては、制度やシステムの改善などがなされてこそ、施策の実行性が出てくるのではないのでしょうか。私たちは世間の状況も、会社が進もうとする方向も理解しますが、全てを無条件に受け入れる訳ではありません。組合の役割である『労働条件の維持向上』を実践するため、内容を検討し交渉に反映させていきます。

昨今、JR東日本にあっては労組の存在感が薄くなり、会社施策に対しては自身の環境のみを照らし合わせる風潮が強くなっていると感じます。次代へつなげていく会社として、働く者の意思を残していかなければなりません。また、『安全』についても原点は現場にあると考えます。私たちは会社と議論する中で、現場の声や実態を経営側に伝えてきました。一度、安全が覆った状況は過去の事例を紐解くまでもないことです。お客様と社員の安全が守られてこそ、会社の発展、生活の向上があるという事は、労使共通のものと考えます。

私たちはそれらをトータルで考え『変革2019イーストイノベーション』を作成しました。『民主的な組織創り』『安全で安心して働ける職場創り』『組合員と家族の幸せを創造する』を、組合員一丸となって実践し、将来への変革に取り組んでいきます。私たちの思いは組合結成時から変わっていません。笑顔を競い合う、お互いを高めて全体のレベルアップを図っていく職場・会社にする事です。それには反社会的な思想、労組を闘争手段に使うような組織などは必要ありません。

『国鉄改革』『民主化闘争』という変革を経て、私たちはもう一段ステップアップするところに来ています。それぞれが抱いていた思いが実現できるように、今年も一丸となった運動を展開して行きます。末筆になりますが、本年も組合員・OBとご家族の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。共に頑張りましょう。

令和元年度

ジェイアール

・イーストユニオン

新潟地方本部役員

執行委員長 船山 勝広

執行副委員長 斎藤 修

〃 瀬藤 正樹

事務局長 池田 庄一

執行委員 高橋 基逸

〃 金田 友稔

〃 鈴木 雅明

〃 南雲 春彦

〃 新保 浩

〃 渡辺 博幸

〃 渡辺 敏昭

会計監査 藤原 光男

どうぞよろしく

お願い申し上げます